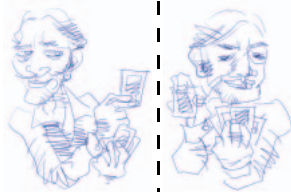




アメリカ大統領選挙の陰で伸びる草の根運動 アメリカならではのネット投票交換



あまりに僅差の開票結果が訴訟合戦に発展し、世界の注目を集めているアメリカ大統領選挙だが、そのほかにもアメリカならではのさまざまな興味深い現象が起きている。フロリダ州の開票問題の陰に隠れてあまり報じられてはいないが、「ネーダー票交換 (Nader Traders)」と呼ばれる一種の市民運動も、インターネットが選挙に与えた影響という面では大きなものがあった。

これは「Votexchange2000.com」や「Nader Trader.org」や「Voteswap2000」など、いくつかのウェブサイトで展開されたネットを通じて票のやり取りをする活動だ。具体的にはアル・ゴアが楽勝しそうな州のゴア支持者がラルフ・ネーダーに投票するかわりに、ゴアがジョージ・ブッシュとの間で接戦を繰り広げる州のネーダー支持者はゴアに投票するという取り引きだ。

今回の米大統領選挙は2大政党間でかつてない大接戦となったため、第3の候補であるネーダーを支持する人々にはジレンマがあった。ネーダー支持者の多くはもと民主党を支持していたが、巨大化し、大企業寄りになった今の民主党では世の中を良くできないと考えて、ネーダー支持になった経緯がある。彼らの中には、ネーダーに勝ち目がないなら、ブッシュよりもゴアに勝ってほしいと考える人が多かったが、ゴアとブッシュが大接戦になった州のネーダー支持者は、自分がゴアではなくネーダーに投票することでブッシュが勝ってしまうのを懸念していた。

アメリカの大統領選挙は州ごとに人口に見合った人数の「選挙人」を選出し、その投票で大統領を決める間接選挙になっており、州の投票でトップの得票を得た党が、その州の選挙人のすべてを自党から出せるという「勝者が全部取る」仕組みだ。全国的な投票総数での競争ではないので、ゴアが楽勝できる州では、ゴア支持者の一部がネーダーに票を入れても問題なかった。

しかし、一方で米大統領選挙に候補者を出す政党が公的な選挙資金を受け取るためには、前回選挙の

全国的な得票数が有権者の5パーセント以上でなければならぬという条件がある。ネーダーは今回の選挙でその条件をクリアできない可能性が大きかったため、票交換運動によってゴア支持者の票を少しでも集めることが必要だった。票の交換はネットを通じて、善意に基づいて行われ、投票日1か月前の10月初めからさかんになった。

問題は、これが公正な選挙活動といえるかということだった。カリフォルニア州の司法長官は「Votexchange2000」や「Voteswap2000」など、票交換を呼びかけた3つのサイトに対して選挙法違反だとして閉鎖を命じる決定を下した。他州の票を得るために自分の票を差し出すのは「贈賄」にあたるという判断だった。運動側は「言論の自由への抑圧」を理由に提訴したが、裁判所は投票日前日に訴えを退けた。結局、ネーダーは5パーセントの票を得ることができなかった。

とはいえアメリカでは、フロリダ州の開票をめぐる共和党寄りの司法長官と民主党寄りの判事が対立するなど、今回の大統領選挙をとらして自国の行政や司法が民意を反映しない12大政党間の権力闘争に支配されていることが明らかになり、反感を覚えている人もかなりいる。ネーダー票交換は「草の根の談合」ともいえるが、一方で国政の上層部でも大統領選の大接戦が2大政党間の談合を不可避とする状況を招いており、票交換が悪いことだと断定できなくなっている。

ネーダー票交換は「売ります買います」に代表されるインターネット取り引きの仕組みとアメリカの選挙制度、そして大統領選の接戦状況が結びついたユニークな運動だ。合法か違法かという問題を含め、今後も議論が続くと思われる。インターネットを草の根の政治ツールとして活用する他の試みも次々と出てくるだろう。

Jump www.votexchange2000.com
Jump www.nadertrader.org
Jump www.voteswap2000.com

Illustration: Harada Kaori



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp